



金屋町通信

発行元：
金屋町まちづくり協議会
発行責任者：般若 陽子
編集責任者：般若慎一郎

左上の写真は、金屋緑地公園にある金屋鋳物7人衆の小さな銅像です。子供たちが作った群像と共に400年の歴史を語っています。

**9月18・19日は
鋳物資料館が無料になります**
金屋町楽市が開催される9月18・19日は鋳物資料館を無料開放することになりました。こちらから市へ要望して実現したものです。この機会に是非、一番奥までご覧ください。なお、富山県で初代人間国宝の金森映井智さんの遺品が多数寄贈され、展示品が充実しています。

えるでしょう。



盛大に納涼祭を開催



8月28日、金屋町納涼祭が盛大に開催され、金屋町住民がおおいに懇親を深めました。今年は統合金屋町に宮川町が加わったことから、宮川町の希望もあり会場を8番街に設定しました。婦人会による飲食模擬店の他、子供のゲームやカラオケ、ビンゴ大会などが用意され、大人も子供もおおいに楽しみました。

金屋町統合は6町まで進み、各町がそれぞれに部分最適を求めてきたこれまでから、金屋町の全体最適を考える姿勢へと自治会の体質が変化しています。そのことが、最大の統合効果であると言

弥栄節後援会&弥栄節保存会

懇親会

8月9日、ホテルニューオータニ高岡において、高岡市役所や商工会議所などの関係者を招き、金屋町住民が出席して毎年定例になっている主題の懇親会が開催されました。

冒頭に先日逝去された弥栄節保存会前会長の新保昭一さんへ全員が黙祷を捧げ、続いて加藤昌宏保存会新会長、元井實後援会会長が挨拶を述べました。



加藤保存会長



元井後援会長

今後の金屋町のまちづくりに、文化づくりに、「やがえふ」を核とした活動が

ますます発展しますように期待されるところで

金屋上町地蔵祭



この時期は各町で地蔵祭が行われていますが、上町では8月28日の午前中に行いました。古くなって破損が目立

っていたお地蔵様の帽子と袈裟を、千歳会婦人部が手作りでこの日に合わせて新調し、お披露目されました。

鑄物資料館だより

高岡市鑄物資料館では8月5日に運営委員会を開催し、新役員の確認、規約の承認、今後の運営方針の確認などを行いました。

運営方針として、過去3年間に開催された数回の企画展を通じて展示品はかなり充足しているので、今後は展示品の説明マニュアル充実、説明ボランティア養成など、ソフト面で来館者へのサービス向上を目指すことにしています。

なお委員から次のような意見が出されました。展示品の所有関係を明確にしておくべき。公民館2階に残っている品物の台帳を作っておくべき。3つの展示室を結合する対策が必要。入館者は殆どが市外の人であり、特に金屋町の人達が見ていないのは問題だ。来館者からアンケートをとってはどうか。

鑄物資料館の2010年度から2011年度の役員は次のとおりです。相談役：加藤昌宏、館長：般若慎一郎、副館長：般若陽子、事務局長：山本貞明、事務局次長：喜多隆雄、運営委員：細呂木和夫、松本吉永、橋本博、秋元正徳、高木康充、金森利行、石塚祐治、島ゆき、丹羽穂子。

金屋町開町400年記念 シリーズ 金屋町と高岡鑄物の歴史

弥栄節の歌詞にあるように、河内

丹南（現在の大阪府堺市美原町）の鑄物師が高岡金屋鑄物師の祖先です。



② 吊り燈籠の伝説

1153年（仁平=にんぴょう3年）、時の天皇（近衛天皇）が現代で言ううつ病にかかり、高貴なお坊さんのご祈祷などいろいろと手を尽くしたがなかなか治らなかった。その時に河内丹

南の領主だった真継（まつぎ）さんが鑄物師「天明」に命じて鉄製吊り燈籠を108個作らせ献上し、宮廷内を夜も明るくしたところ、天皇の病が回復した。

これに天皇が感激された事がきっかけで、河内鑄物師の保護政策が始まる。朝廷は河内鑄物師に継続的に宮中へ燈籠を献上することを命じると共に、藤原姓を与え、諸役（税金）を免除し、鑄物業の独占権を与えた。このことから真継家が全国の鑄物師を支配するようになり、河内鑄物師の特権は明治にいたるまで続くことになった。

したがって日本全国の鑄物師は河内鑄物師が祖先であり、高岡金屋鑄物師もこの河内鑄物師がルーツです。ところで現在の河内丹南に鑄物産業は存在しません。南北朝の戦乱の時代に全国へ離散したと言われています。

記事募集

金屋町ではいろいろな活動が動いています。児童クラブ、らいちょうクラブ、千歳会、青年協議会、婦人会などなど。金屋町での小さな出来事やイベントを、編集責任者までお知らせください。